

令和6年度実施したデジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)事業の概要等

事業名	半世紀を経て完成する歴史の道八十里越街道と日本一の地方創生路線只見線が繋ぐ新たな広域観光X（エックス）圏創生プロジェクト
事業の背景	【目的】 奥会津地方及び三条市旧下田村・魚沼市旧入広瀬村の中山間部地域は越後三山只見国定公園に接し、日本有数のブナ林などの広葉樹林の自然が残っている地域であるが、深刻な過疎高齢化地帯ともなっている。一昨年のJR只見線の11年ぶりの歴史的再開通や、計画から約半世紀を経て令和8～9年度に完成見込みとなっている国道289号八十里越え道路は、新潟県と福島県の県境を越えて大きな観光活性化・人の流れの転換点となる出来事として注目されており、近隣5市町では特にこれからの取組が非常に重要と位置づけている。只見線再開通・八十里越街道開通という大きな交通の転機は、広域観光振興と交流・関係人口増加の好機となりえる事象であることから、本交付金による事業により、経済的・人材的にも自立してゆける広域観光圏としての確立を目指す。 【背景】 ○奥会津は、尾瀬国立公園、越後三山只見国定公園、2014年に指定された只見ユネスコエコパークを擁する自然豊かな地域である。 ○奥会津の山間を縫うように走るJR只見線は、全国屈指の秘境路線として知られ、車窓からは只見川や河畔に点在する集落、雄大な山々など四季を通じておりなす絶景が広がっている。ローカル線の王者、世界一ロマンティックなローカル線とも呼ばれ、各種ローカル線ランキングでは常に上位に位置しており近年国内からも国外からも注目を集め始めている。 ○八十里越街道が通る新潟県三条市下田地域と福島県只見町は、県境を介し隣接しているものの、司馬遼太郎の人気小説「峠」の舞台でもある「八十里越」の厚い山々に阻まれ、これまで直接の往来が不可能な状態にあった。しかし、両市町を結ぶ「国道289号八十里越道路」が、開削の計画事業着手から50年以上の時を経て残すところ3年から4年程で開通する予定となった。 ○かつて新潟県中越地方と福島県会津地方を繋ぐ主要交通路であった八十里越街道の古道は歴史の道として知られ、長岡藩の河井継之助が戊辰戦争で長岡市から只見町に逃れてきた道として知られ、「八十里 越抜け武士の 越す峠」は有名な一句であり、多くの史跡が残されているが、古道が隣接する只見町・魚沼市・三条市では古道を調査・整備し歴史の道八十里越古道として観光・文化交流の要素として調査を行っている。 ○本地域は水資源が豊富であることと急峻な地形に着目されたことから電源開発が行われ、昭和30年代をピークとし人口が流入したものの、その後は流出の一途をたどっており（奥会津7町村最大人口S30年79,374人→H30年27,942人、高齢化率H11年31.7%→H30年44.4%）、過疎高齢化が進行している。 ○本県の観光客入込数については、震災と風評により大きな被害を受け、その後、平成31年では震災前の平成22年と比べ、98.5%の水準まで回復し、また、教育旅行宿泊者数については、平成31年では震災前の72.8%と緩やかな回復傾向であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年は、観光客入込数が震災前の63.3%、教育旅行宿泊者数が震災前の14.0%と、非常に大きな落ち込みとなり、震災と風評に立ち向かう本県を取り巻く環境は更に厳しい状況となっている。また、昨年8月にアルプス処理水の放出により特に中国からの風評被害は大きく、現在も輸入中止の措置などが取られ、只見町についてもねっかの輸出用日本酒の輸入停止の被害がでている。 ○越後三山只見国定公園・尾瀬国立公園の自然は、只見川沿いの急峻な崖と川面との四季折々のコントラストや、湿地や湖に生息する多様な動植物、世界屈指と評されるブナの原生林、そして本州最大の高層湿原であり多様な高山植物を見ることができる尾瀬など、多くの魅力があり、それらを活かしたトレッキングは重要なコンテンツとなり得る。 ○また、本申請地域は農山村地域であり、昔ながらの生活様式や伝統工芸などがそのまま残されており、これらになじみがない外国人や、都会で生活する方にとって魅力となる。また豪雪地帯でもあることから、古民家での雪の暮らしや文化についても台湾やタイなどの東南アジアの方々に人気のあるコンテンツとなりうる。 【将来像】 ○只見線の再開通・八十里越街道の開通を契機としてPR関係事業とハード整備などを行い、広域観光圏としての知名度の向上と受け入れ体制を構築し、当エリアの広域的な観光振興、新たな広域観光圏の創出と交流・関係人口の拡大を図り、経済的・人材的に自立した地域の構築を目指す。 ○当地域の自然環境と、自然資源を活用した持続可能な稼げる地域としての自立を目指す。目標とする地域としては国内では熊野古道と周辺の神社群＋観光施設、海外においてはスイスのツェルマット方面などの山岳・高原地帯を核とした広域観光圏 【構造的な課題】 ○人材の不足 ・過疎地域である5市町で構成する当エリアは、1990年の人口190,285から2020年の人口が149,482人と30年で40,803人、21.44%が減少し都市部よりも後継者不足に直面しており、早急な人材確保が望まれている。この現状を改善する必要があることから本事業実施による観光交流人口の増加・関係人口化・移住人口化への取り組みが期待される。 ・会津川口駅及び只見駅では令和5年12月から駅の無人化が進められたことにより只見線利用者への乗車券販売・乗換案内などのサービスを行う人がいない状態となり、各町の中心的駅にも関わらずサービスの致命的な低下が進行している。また、11年ぶりに再開通したにも拘わらず、町の玄関口でもある駅が無人化していることによる著しいイメージダウンが懸念される。 ○地域経済の低迷 ・構成市町エリアの地域経済循環率は平均で84.8%となっており、経済的に自立できていない地域となっており、地域内生産力向上及び観光事業による外貨獲得が求められている。 ○連携の不足 ・市町や観光協会ごとに個々に実施してきた事業はあるが、類似イベントの実施や個別的PRなど、エリアとして連携した取り組みについて不足しており、個別の事業により個別の効果を求め、限定的な効果しか得られていない現状となっている。 ○知名度の不足 ・一昨年の只見線再開通により知名度は向上したが、都市部でのPRイベントなどを行うと全国的には只見線もまだまだ知名度は低く、八十里越街道は未開通であることもあり、まだ無名に近い存在であることがうかがえる。

事業の概要	○八十里越街道の開通を見据えた付帯施設整備と食のメニュー、イベント、アクティビティ開発など観光振興、交流人口の拡大、関係人口化につながる取り組みの推進。 ○八十里越古道の整備と歴史の道、文化を通じた観光振興、観光資源開発、人材交流と育成と交流人口、関係人口化への取り組み。 ○福島県金山町の会津川口駅・福島県只見町の只見駅・新潟県魚沼市の小出駅や沿線周辺において、観光PRや沿線案内を含む簡易券売委託や新たなビュースポット整備、駅舎の整備など連携した取り組みによりJR只見線をより多くの方に乗っていただく、来ていただく、知っていただく機会を拡大し、観光交流人口増加、関係人口化への取り組みの推進。 ○八十里越街道エリアと只見線県境付近エリアの山岳・高原地域を核とした自立（持続）可能な広域観光圏の形成と、観光事業者育成のための市町連携事業の展開。 ○デジタル技術を活用した分析と事業展開として大手検索サイトや観光アプリにより採取した観光客データの利活用やトレッキング事業を実施。 【福島県只見町】八十里越街道とJR只見線の交差するエリアであり、また本計画区域の地理的中心に位置することから八十里越街道及び只見線関係両方の事業を行い両県、エリア全般に波及する効果を狙った取り組みを行う。具体的には、八十里越街道の完成を迎えるための広域サインの整備、エリアの観光意識と連携強化を高めるセミナー・商品開発や、トレッキング魅力化事業。只見線関連では、只見線子ども会議で創出されたアイデアの具現化として只見線車両ラッピング、ポスターフォトコンテスト、新たなビュースポット整備を行う。また、只見駅はいずれのルートにも接する重要な地点であることから、駅の無人化を解消し受け入れ案内サービスの向上を行う。 【福島県南会津町】八十里越街道が通る国道289号が横断する地域であり、街道の魅力化を図る取り組みを行う。具体的には、エリアの観光意識と連携強化を高めるセミナー・商品開発や関東方面からやインバウンド獲得を狙うプロモーションを展開する。福島県の中通りや太平洋側の関東方面からの玄関口として、本エリアに誘導する取り組みを行う。 【福島県金山町】只見線が通る町であり、会津川口駅を中心とした只見線沿線に関する取り組みを行う。また、八十里越街道からも只見町から北に分岐後は当町に通じるため、八十里越街道関連事業も行う。地理的に本エリアの北東に位置することから福島県会津地方の中心部や福島県中通り、山形方面からの玄関口として、本エリアに誘導する取り組みを行う。会津川口駅はいずれのルートにも接する重要な地点であることから、駅の無人化を解消し各種サービスの向上を行う。 【新潟県三条市】八十里越街道が通る市であることから、八十里越街道に関連した事業を行う。具体的には、エリアの観光意識と連携強化を高めるセミナー・商品開発や八十里越体感コンテンツの作成、八十里越古道の開発を行う。国内有数のアウトドアメーカーの集積地としての強みと豊かな自然資源を活用し、魅力的な観光コンテンツを創出することで、県内外からの八十里越街道沿線地域への誘客を図る取組を行う。 【新潟県魚沼市】只見線が通る市であることから、只見線に関連した事業を中心に行う。具体的には小出駅を中心とした観光周遊バスの開発、駅観光案内所の運営、只見線ラッピング列車の運行と情報発信を行い只見線と地域の更なる魅力化を図る。地理的にエリアの南西に位置し上越新幹線や関越自動車からのエリアへの入り口として、首都圏などの関東方面や上越地方からの誘客を図る取り組みを行う。 【5市町共通】本エリアの連携を図り広域観光圏を構築するためのセミナーや連絡会、組織の構築を行う。道路と鉄路の各拠点を繋ぐ線としての取り組みから、エリアとして連携する面的な取り組みを行い、エリアとしての知名度の向上と、相互案内や合同イベントなどの域内連携による経済効果と相乗効果の獲得を図る。
交付金を充当した経費	【総事業費（金山町）4,994,770円】・・・国交付金2,420,385円、一般財源2,574,385円 1. 八十里越街道開通PR強化事業 1,694,000円（交付対象事業費：1,540,000円） 情報発信のための広告料 1,100,000円、多言語パンフレット作成（印刷製本費） 594,000円 2. 会津川口駅・只見線沿線魅力化事業 3,300,770円 会津川口駅魅力化インフォメーション及び簡易運営委託料：3,133,570円、駅愛称名看板策事業（大塩駅、横田駅）：167,200円